

MAGAZINE FOR QUALITY OF LIFE

MEDICAL



メディカル クォール

2017

9

SEPTEMBER
No.274

「ボストン美術館の至宝展―東西の名品、珠玉のコレクション」は、10月9日まで東京都美術館で開催中



フィンセント・ファン・ゴッホ
《郵便配達人ジョゼフ・ルーラン》
1888年
81.3cm x 65.4cm 油彩、カンヴァス
Gift of Robert Treat Paine, 2nd, 35.1982
Photograph © 2017 Museum of Fine Arts, Boston

岩田めい達の医事放談

これまでの10年間とこれからの10年間

医療構造改革の今日的課題²⁰⁶

医療保険制度における負担の公平

医療保障政策研究21

トレンドィ・レポート

医療計画をめぐる審議会論議が事実上終了
医療計画と介護計画の整合性等が課題に

医療変革期の病院経営戦略²⁰⁷

地域医療構想で15万床減少、在宅30万人
国際医療福祉大学大学院教授 武藤 正樹

特集

第一九回日本医療マネジメント学会学術総会レポート・前編
職員と患者の満足によって実現する地域を守る医療
質の向上、客観的評価、理念の共有が職員の自信に

スペシャルレポート

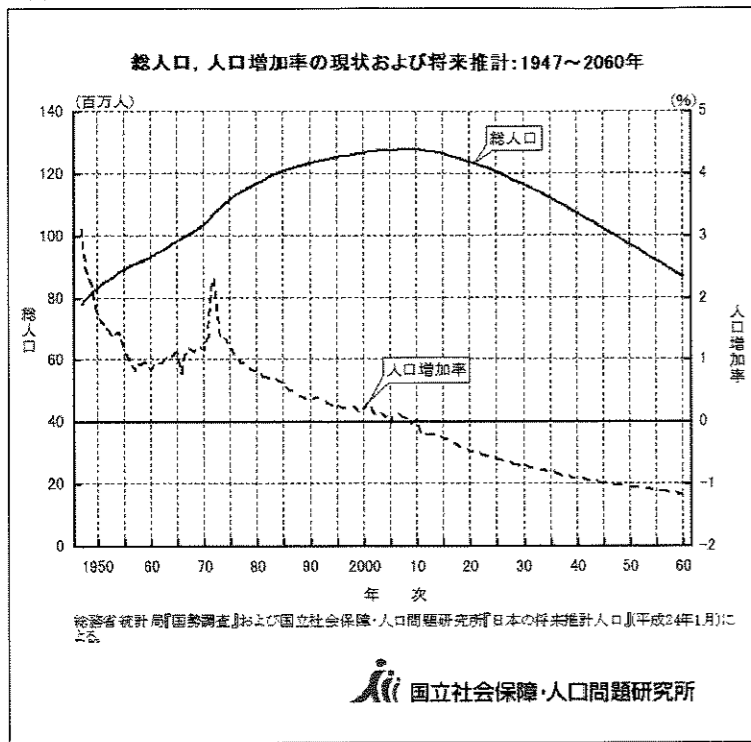
第四二一回医療政策懇話会 スペシャルレポート
現役厚生労働大臣と製薬業界の重鎮が講演
医療制度改革の今後と製薬業界が抱える課題

徹底解説・医療経営ゼミナール

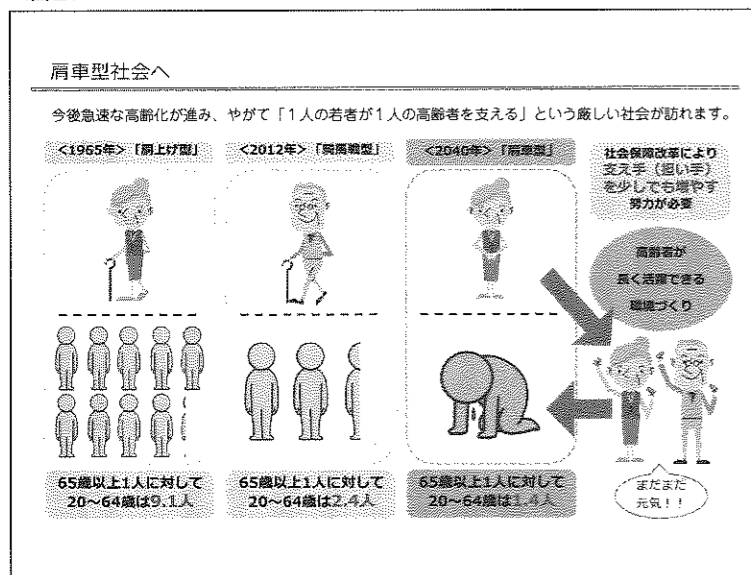
第63回 医療界の未来の年表

東日本税理士法人 副所長・税理士 坂田 茂

<図1>



<図2>



影響で未来の母親となる女の子の数が減少しているためである。

① 介護離職が大量発生する。団塊の世代の子供達の先頭(一九七一年生まれ)が五〇代に入る頃で、親の介護を抱える時期と重なる。

② 全国民の三人に一人が六五歳以上となる。実は、二〇二五年の一年前に、団塊の世代が全員七五歳以上になるそうだ。

③ 輸血用の血液が不足する。東京都や日本赤十字社の試算では、この頃に輸血がピークを迎えるが、献血をする人が年々減少しているため、このような事態を招く。

④ 百貨店も銀行も老人ホームも地方から消える。地方では、高齢者自体がいなくなってしまうためだ。

⑤ 深刻な火葬場不足に陥る。死亡者数のピークがこの頃であるためだ。

⑥ 自治体の半数が消滅する。地方では高齢者が減って、若者は都市部へ移ってしまう結果である。

⑦ 高齢者数のピークを迎える。日本最大のピンチであるという。実は、二〇二五年問題よりも深刻なのだ。二〇二五年問題よりも、団塊の世代に次いで人口ボリュームがある団塊ジュニア世代が全員高齢者となる。

⑧ 二五年問題は解決できない

⑨ 二〇一八年は、第七次医療計画、介護保険事業計画がスタートする年。つまり、二〇一八年は、極めて重要な年なのである。

⑩ 今後の病医院経営のキーワード

地域包括ケアシステムの推進を目標とするわが国において、今後の病医院経営のキーワードを考えてみる。

① 人口減(地方では「顧客」である高齢者の減少がはじまっている)

② 二〇二五年問題と社会保障費の削減

③ 消費税率一〇%への引き上げによる「損税」の問題

④ 地域医療連携推進法人のよつな「緩い合併」の選択

⑤ 市町村によって地域包括ケアシステムのの中身と進み方が異なる

つまり、地域での自院の機能を明確にし、ニーズに応じて迅速に転換を進めなければ生き残ることができない。

具体的には、たとえば、SWOT分析(Sは強み、Wは弱み、Oはチャンスとなる外的要因、Tは脅威となる外的要因)をして、自院を見詰めた直し、戦略を立て実行に移すといったことが必要であろう。地域で「競争して共倒れ」ではなく、「協調して生き残る」ということである。

て、日本の高齢者が四〇〇〇万人にも膨らむからだ。

② 〇四五 東京都民の三人に一人が六五歳以上となる。地方から若者を吸い上げてきた東京も、その若者が高齢者になる。

③ 二〇二五年問題

「未来の年表」でいうと二〇二五年は目前であるが、この年を厚生労働省が当面のゴールと考えている「二〇二五問題」。この問題は、戦後の世代としてもボリュームの厚い団塊の世代八〇〇万人が、二〇二

五年頃までに後期高齢者(七五歳以上)に達し、介護・医療費等社会保障費の急増が懸念される問題のことをいう。

さらに、数字で比較してみると、現在の国家財政では対処しきれない。

① 一人当たりの年間医療費

六四歳までは、年一八万円平均だが、七五歳以上になると年九〇万円平均。五倍に膨らむ。

② 一人当たりの年間介護費

六五歳から七四歳までは年五万円平均だが、七五歳以上は年五三万円平均。一〇倍に膨らむ。

今年の一月一日現在では、一億二五八万人で前年との減少幅が三〇万人と過去最大の減少であった。

一方で、出生数は九八万人とはじめて一〇〇万人を割り、少子化の進展が鮮明となっている。「肩車」社会はもうすぐ到来する(図2参照)。

人口増加率から試算すると、右肩下がり日本の人口は、二〇六五年には八八〇〇万人(一九五四年の人口と同じ)まで減ってしまう。

さらには、今から一〇〇年後には五〇〇〇万人、二〇〇年後には一三〇〇万人、三〇〇年後には四五〇万人となり、現在の福岡県の人口(五一〇万人)を下回るそうだ。九八三年後の三〇〇〇年には、なんと全国に日本人は二〇〇〇人しかいない。

このように、世界でも類をみない「急激に人口が減る国」の人口に私たちは立っている。

④ 未来の年表

「未来の年表」という本の中の年表の一部を掲載する。

⑤ 〇一七 すでに日本は「おばあちゃん天国」である。日本人女性の三人に一人が六五歳以上である。

⑥ 二〇二〇 東京オリンピック開催年に、女性の半数が五〇歳を超えるといる。これは、これまでの少子化の

⑦ 年金なども含めた社会保障給付費全体

二〇一五年度は一八兆円、二〇二五年度は一四兆八兆円。二五%も増加する。このような破たん寸前の時代が、わずか八年後に到来する。

⑧ 二〇一八年同時改定のもつ意味

来年の診療報酬、介護報酬の同時改定は、次のような意味をもつ。

① 二〇二五年までに、同時改定は二回(二〇一八年、二〇二四年)しかない

② 二〇二四年の同時改定だけでは二

今、医療・介護の業界では、団塊の世代が全員七五歳以上の後期高齢者に属する時期を「二〇二五問題」と呼び、医療機関や介護施設の不足、社会保障費の増大が懸念されている。そのようななか、人口が激減したり、高齢者が激増したりすることによって生じる弊害を、正確な数値予測をもとに考察している『未来の年表』(河合雅司著)という書籍が発表された。

この本では、人口が激減していく過程で生じる日本の課題を四つ(出生数の減少、高齢者の激増、勤労世代(二〇〜六四歳)の激減に伴う社会の支え手不足、それらが相互に絡み合っ起る人口減少)に整理し、「静かなる有事」と名づけている。

さらに、高齢者数がピークを迎える二〇四二年頃がもっとも深刻な時期で、無年金・低年金の貧しく身寄りのない高齢者が街に溢れるのではないかと、とも予測している。

今回は、二〇二五年問題とともに、今後の日本で起こり得る医療・介護の問題を紹介したい。

① 人口減少ニッポン

一九六七年に日本の人口は一億人を超えたが、二〇〇八年の一億二八〇〇万人をピークに減少に転じた(図1参照)。

② 未来の年表

「未来の年表」という本の中の年表の一部を掲載する。

③ 〇一七 すでに日本は「おばあちゃん天国」である。日本人女性の三人に一人が六五歳以上である。

④ 二〇二〇 東京オリンピック開催年に、女性の半数が五〇歳を超えるといる。これは、これまでの少子化の

⑤ 年金なども含めた社会保障給付費全体

二〇一五年度は一八兆円、二〇二五年度は一四兆八兆円。二五%も増加する。このような破たん寸前の時代が、わずか八年後に到来する。

⑥ 二〇一八年同時改定のもつ意味

来年の診療報酬、介護報酬の同時改定は、次のような意味をもつ。

① 二〇二五年までに、同時改定は二回(二〇一八年、二〇二四年)しかない

② 二〇二四年の同時改定だけでは二

③ 消費税率一〇%への引き上げによる「損税」の問題

④ 地域医療連携推進法人のよつな「緩い合併」の選択

⑤ 市町村によって地域包括ケアシステムのの中身と進み方が異なる

つまり、地域での自院の機能を明確にし、ニーズに応じて迅速に転換を進めなければ生き残ることができない。

具体的には、たとえば、SWOT分析(Sは強み、Wは弱み、Oはチャンスとなる外的要因、Tは脅威となる外的要因)をして、自院を見詰めた直し、戦略を立て実行に移すといったことが必要であろう。地域で「競争して共倒れ」ではなく、「協調して生き残る」ということである。

今年一月一日現在では、一億二五八万人で前年との減少幅が三〇万人と過去最大の減少であった。

一方で、出生数は九八万人とはじめて一〇〇万人を割り、少子化の進展が鮮明となっている。「肩車」社会はもうすぐ到来する(図2参照)。

人口増加率から試算すると、右肩下がり日本の人口は、二〇六五年には八八〇〇万人(一九五四年の人口と同じ)まで減ってしまう。

さらには、今から一〇〇年後には五〇〇〇万人、二〇〇年後には一三〇〇万人、三〇〇年後には四五〇万人となり、現在の福岡県の人口(五一〇万人)を下回るそうだ。九八三年後の三〇〇〇年には、なんと全国に日本人は二〇〇〇人しかいない。

このように、世界でも類をみない「急激に人口が減る国」の人口に私たちは立っている。

④ 未来の年表

「未来の年表」という本の中の年表の一部を掲載する。

⑤ 〇一七 すでに日本は「おばあちゃん天国」である。日本人女性の三人に一人が六五歳以上である。

⑥ 二〇二〇 東京オリンピック開催年に、女性の半数が五〇歳を超えるといる。これは、これまでの少子化の

⑦ 年金なども含めた社会保障給付費全体

二〇一五年度は一八兆円、二〇二五年度は一四兆八兆円。二五%も増加する。このような破たん寸前の時代が、わずか八年後に到来する。

⑧ 二〇一八年同時改定のもつ意味

来年の診療報酬、介護報酬の同時改定は、次のような意味をもつ。

① 二〇二五年までに、同時改定は二回(二〇一八年、二〇二四年)しかない

② 二〇二四年の同時改定だけでは二

③ 消費税率一〇%への引き上げによる「損税」の問題

④ 地域医療連携推進法人のよつな「緩い合併」の選択

⑤ 市町村によって地域包括ケアシステムのの中身と進み方が異なる

つまり、地域での自院の機能を明確にし、ニーズに応じて迅速に転換を進めなければ生き残ることができない。

具体的には、たとえば、SWOT分析(Sは強み、Wは弱み、Oはチャンスとなる外的要因、Tは脅威となる外的要因)をして、自院を見詰めた直し、戦略を立て実行に移すといったことが必要であろう。地域で「競争して共倒れ」ではなく、「協調して生き残る」ということである。

影響で未来の母親となる女の子の数が減少しているためである。

① 介護離職が大量発生する。団塊の世代の子供達の先頭(一九七一年生まれ)が五〇代に入る頃で、親の介護を抱える時期と重なる。

② 全国民の三人に一人が六五歳以上となる。実は、二〇二五年の一年前に、団塊の世代が全員七五歳以上になるそうだ。

③ 輸血用の血液が不足する。東京都や日本赤十字社の試算では、この頃に輸血がピークを迎えるが、献血をする人が年々減少しているため、このような事態を招く。

④ 百貨店も銀行も老人ホームも地方から消える。地方では、高齢者自体がいなくなってしまうためだ。

⑤ 深刻な火葬場不足に陥る。死亡者数のピークがこの頃であるためだ。

⑥ 自治体の半数が消滅する。地方では高齢者が減って、若者は都市部へ移ってしまう結果である。

⑦ 高齢者数のピークを迎える。日本最大のピンチであるという。実は、二〇二五年問題よりも深刻なのだ。二〇二五年問題よりも、団塊の世代に次いで人口ボリュームがある団塊ジュニア世代が全員高齢者となる。

⑧ 二五年問題は解決できない

⑨ 二〇一八年は、第七次医療計画、介護保険事業計画がスタートする年。つまり、二〇一八年は、極めて重要な年なのである。

⑩ 今後の病医院経営のキーワード

地域包括ケアシステムの推進を目標とするわが国において、今後の病医院経営のキーワードを考えてみる。

① 人口減(地方では「顧客」である高齢者の減少がはじまっている)

② 二〇二五年問題と社会保障費の削減

③ 消費税率一〇%への引き上げによる「損税」の問題

④ 地域医療連携推進法人のよつな「緩い合併」の選択

⑤ 市町村によって地域包括ケアシステムのの中身と進み方が異なる

つまり、地域での自院の機能を明確にし、ニーズに応じて迅速に転換を進めなければ生き残ることができない。

具体的には、たとえば、SWOT分析(Sは強み、Wは弱み、Oはチャンスとなる外的要因、Tは脅威となる外的要因)をして、自院を見詰めた直し、戦略を立て実行に移すといったことが必要であろう。地域で「競争して共倒れ」ではなく、「協調して生き残る」ということである。